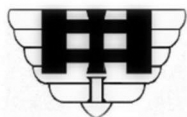


東伊豆町学校教育環境整備委員会

次 第

令和8年7月24日（金）
午後7：00 ～
東伊豆町役場1階 研修室

- 1 開 会（事務局）
- 2 挨 拶 東伊豆町教育長 横山尋司
- 3 前回の会議内容について（事務局）
- 4 議 事 （会長）
 - （1）これから議論すべき項目について
 - ① 統合中学校の教育方針とメリット（資料1）
 - ② 通学について（資料2）
 - ③ 部活動について（資料3）
 - ④ その他議論すべき項目（資料4）
 - （2）その他
- 5 閉 会（事務局）



令和 8 年度 東伊豆町立稲取中学校 グランドデザイン

国の方針

- ・持続可能な社会の創り手の育成
- ・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

静岡県の方針

- 「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現」
- ・未来を創造する力を育む教育の推進
- ・全ての人の学びを支え力を引き出す教育の推進
- ・地域ぐるみで取り組む教育の推進
- ・学びを支える基盤づくり

東伊豆町の基本理念

- ・「心ゆたかな人を育む生涯学習の推進と文化の創造」
- ・「東伊豆で育ってよかった。東伊豆で暮らしてよかった。」と実感できる教育の推進

東伊豆ビジョン 主体的に人とのかかわり夢を育む子 ～小さな達成感を積み上げよう～

校訓 自主 敬愛

学校教育目標

チャレンジ 生き生き みんなと共に

重点目標

学び合う

主体的に課題に向かい、自分なりに考え、生き生きと学び合う生徒

認め合う

思いやりあたたかい人間関係の中で、みんなと共に認め合う生徒

高め合う

自分らしさを活かしてチャレンジし、互いに高め合う生徒

学校経営目標

- * 生き生きと学びの実感を積み重ね、主体的・対話的で深い学びを実現する「魅力ある授業」を創造する。
- * 自分らしさを大切に、夢や希望に向かってチャレンジし、「実践する力」「発信する力」「主体的に取り組む力」を育む。
- * 互いを認め合い、仲間として支え合いながら、思いやりを持った人間関係を築こうとする「共生」の態度を養い、地域（町・園・学校・人）と連携したキャリア教育を推進する。

学力向上推進部

- 挑戦する意欲をもって学習に取り組む生徒
- …学校評価アンケート、授業のルールや環境整備＝80％以上
- ねばり強く自学自習を進める生徒
- …学校評価アンケート、家庭学習の取組＝80％以上
- 進んで学習に取り組む生徒
- …授業外の学習機会への参加、取組＝90％以上

生活向上推進部

- 挨拶ができ、他を思いやりながら生活できる生徒
- …学校評価アンケート、挨拶や思いやり＝80％以上
- 自律し責任感を持って行動できる生徒
- …学校評価アンケート、係活動、委員会＝80％以上
- 自分で自分の命を守れる生徒
- …各クラスの毎月の出席率＝90％以上

①

学習指導

- ・基礎・基本の定着、個に応じた支援
- ・魅力ある授業を創造する授業改善
- ・個別最適な学びと協働的な学習
- ・多様な体験活動、地域学習の充実
- ・学習習慣定着のための工夫
- ・英語、外国語教育の充実 ALT の活用
- ・ICT機器の活用力向上
- ・GIGA スクール構想の推進
- ・読書活動の充実

特活指導

- ・生徒の自治力の伸長と活動の充実
- ・仲間と協力して、個が生きる学校
- ・リーダー、フォロワーの育成と場面の創出
- ・生徒主体の諸活動の創造
- 「発達支持的生徒指導の充実」・キャリア教育の充実
- ・健やかな心身の育成
- ・望ましい食習慣の育成

「自己存在の感受」

「共感的な人間関係の育成」

「自己決定の場の提供」

「安全・安心な風土の醸成」

生徒指導

- ・挨拶、声かけ、励まし等、発達支持的生徒指導の充実
- ・命を守る安心安全な学校教育の推進(健康・災害・交通)
- ・温かみで他者とともに大切に人権感覚の醸成(人権研修伝達、体罰)
- ・「調和と協調」に基づくウェルビーイングの向上
- ・いじめ、不登校等の課題を早期発見し組織的な早期対応の推進
- ・誰一人取り残さない学びの実現
- ・インクルーシブ教育の機会創出、特別支援の視点を生かした支援

②

③

④

学校教育目標具現化アンケート結果活用評価(PDCA サイクル)

◇学校評価(生徒・保護者・教育関係者) ◇行事反省アンケート ◇授業改善アンケート

地域連携 幼小中高連携 人との連携の推進(縦の接続・横の連携) 社会に開かれた教育課程

令和 8 年度 東伊豆町立熱川中学校 グランドデザイン

《 国 》

「生きる力」の育成
令和の日本型教育

《静岡県》

未来を切り拓く人材の育成と
社会を生き抜く力を育む教育の実現

《東伊豆町》

◇心ゆたかな人を育む
生涯学習の推進と文化の創造

《東伊豆 vision（東伊豆連携ビジョン）》

主体的に人とかわかり、夢を育む子

学校教育目標

夢に向かって、ともに高め合う生徒

重点目標 自信をもち、目標に向かって挑戦し続けよう

♪生徒も保護者も教職員も
ウェルビーイングな学校♪♪トライアングルの
音が響く学校♪

【学習・研修】

学ぶ楽しさを実感する生徒

①個人思考を楽しむ授業

・基礎学力の向上

②交流で思考を深める授業

・表現力の向上

③ICT 機器を効果的に活用した授業

・情報活用能力の向上

【AB 評価の回答】

・目標に向かって挑戦する 80%

・自分の考えをもつ 80%

・学級学校のために動く 90%

・相談する相手がいる 90%

【生活・特活】

失敗を恐れず、主体的に活動する生徒

①自己有用感を得る学級活動

責任感 粘り強さ

②達成感が高まる生徒会活動

企画力、実践力

③個と集団が成長する学校行事

協調性、公德心

研修テーマ：思考力を育む授業づくり

特別支援教育の充実

【生徒指導】誰もが安心して生活できる居場所のある学校

①自分を表現できる環境づくり

②基本的生活習慣の徹底

③いじめを許さない学校づくり

レジリエンス

Action

Check

Plan

Do

学校経営目標（めざす姿）

☆肯定的な人間観 ☆授業力の向上

○（教職員は）学ぶ楽しさを実感する授業を生徒とともにつくる。

○（教職員は）失敗を恐れず、主体的に活動する生徒を支援する。

○（教職員全員で）業務改善・改革を意識し『協働型組織力』を向上させる。

地域・家庭（保護者）との連携

『地域とともにつくる学校』

- ・熱川小中合同学校運営協議会
- ・熱川小中連絡会の開催
- ・子ども観・授業観の共有
- ・熱川地区民生委員連絡会

『東伊豆 vision 共有』（幼小中高連携）

- ・授業内容系統性の共有
- ・交流行事
- ・東伊豆教育研修会

『PTA 活動』

- ・奉仕作業 資源回収
- 『地域ボランティア』
- ・授業補助
- ・読み聞かせ

～ 地域とともに育てる生徒・生徒とともに創造する地域 ～

中学校統合に伴う通学支援施策の基本方針（草案）

1. 新たな通学支援の目的

中学校統合にあたり、生徒が安全かつ心身ともに健全に通学できる環境を整えることは、自治体としての最優先事項です。「スクールバスを基本とした柔軟な選択制」を導入することで、生徒の負担軽減と、町民全体の利便性向上を同時に実現します。

2. 基本方針：ハイブリッド型通学システムの構築

- **スクールバスの基本化と希望者への保障**
 - スクールバスによる通学を基本とし、希望する生徒が確実にスクールバスを利用できる体制を構築します。
- **「好きな時に、好きな手段を」選べる自由選択制**
 - スクールバス、自主運行バス、電車の3つの手段を、当日の部活動の予定や個人の事情に合わせて自由に選択できるシステムを構築します。
- **経済負担の完全無償化**
 - どの交通手段を選択した場合でも、利用料金は全額公費で負担し、保護者の経済的負担を完全にゼロとします。

3. 実施の根拠：子供たちの安全と健康を守るために

- **「通学1時間以内」の基準遵守：** 文部科学省の基準である「おおむね1時間以内」を厳守します。
- **メンタルヘルスへの影響回避：** 最新の研究では、通学時間が片道1時間を超える生徒は、1時間以内の生徒と比較してうつ症状のリスクが1.6倍に増大するという結果が出ています。
- **安全な成育環境の保障：** 長距離通学による体力的な疲弊や精神的な負担を最小限に抑えることは、教育環境を整える上で不可欠です。

4. 現状の課題と解決策

- **課題 1：公共交通機関（電車）の制約**

- 現状、電車は 1 時間に 1 本程度しか運行していない時間帯があり、駅での待ち時間を含めると帰宅完了までに 1 時間を超えてしまうエリアが存在します。
- **解決策：** スクールバスを基本とすることで、電車の時刻表に左右されない柔軟な運行ルートを設定し、時間短縮を図ります。

- **課題 2：多様な放課後活動への対応**

- 部活動、補習などで下校時間が異なる場合や遅刻・早退者の通学、土日など、すべてを完全にスクールバスで対応しようとする多くの運転手が必要になり、財政的負担が大きすぎます。
- **解決策：** 自主運行バスや電車も併用できる「選択制システム」により、どの時間帯でも安全に帰宅できる手段を確保します。

5. スクールバスの多目的運用：町民の足としての活用

限られた資源を有効活用するため、スクールバスを通学専用に限らず、地域の公共交通網の一部として組み込みます。

- **空き時間の一般開放：** 登下校時間以外の空いている時間を活用し、町民が日常の足として利用できる巡回バス等の交通網を構築します。
- **地域インフラの維持：** 生徒の通学手段を確保することが、結果として公共交通の維持につながり、町全体の利便性を向上させる「持続可能な公共交通モデル」を目指します。

学校統合に係る部活動地域展開等 検討資料

令和8年7月

東伊豆町教育委員会事務局

本検討の前提と背景

■ 統合の全体目標

令和14年度に「幼小中高一貫的教育環境」の構築を目指す。

■ 中学校の先行統合

生徒数の減少による部活動の存続・充実を図ることを大きな理由の1つとして、令和11年度の先行統合を検討中。

■ 目的

教員の働き方改革のみならず、子供たちの豊かな体験機会を将来にわたって守り、発展させることを目的とする。

■ 検討体制

詳細は部活動地域連携推進協議会で協議し、学校環境整備検討委員会では方向性を検討する。

双方が連携し、情報共有していく。

東伊豆町の部活動の現状（令和8年5月調査）①

稲取中学校

（単位：人）

	1年	2年	3年	計	1.2年計
男子バスケット	0	0	0	0	0
女子バスケット	5	0	3	8	5
男子バレー	3	8	3	14	11
女子バレー	0	2	4	6	2
男子テニス	0	0	0	0	0
女子テニス	7	5	3	15	12
男子卓球	9	0	4	13	9
吹奏楽	0	0	6	6	0
	24	15	23	62	39

※ 外部団体所属 陸上（2名）、新体操（1名）、剣道（0名）、柔道（0名）

部活・クラブ 兼部 陸上（1名）剣道（1名）柔道（0名）

柔道・剣道は中体連と同じ日のため、参加なし

熱川中学校

（単位：人）

	1年	2年	3年	計	1.2年計
男子バレー	3	3	3	9	6
女子バレー	4	3	4	11	7
男子テニス	6	12	3	21	18
女子テニス	3	5	1	9	8
男子卓球	0	0	0	0	0
女子卓球	0	3	5	8	3
	16	26	16	58	42

※ 外部団体所属 水泳（1名）、新体操（1名）、ボクシング（1名）、ダンス（1名）

部活・クラブ 兼部 バレー（1名）、サッカー（2名）、新体操（2名）、ダンス（1名）

東伊豆町の部活動の現状（令和8年5月調査）②

中学校 合計

（単位：人）

	1 年	2 年	3 年	計	1.2 年計
男子バスケ	0	0	0	0	0
女子バスケ	5	0	3	8	5
男子バレー	6	11	6	23	17
女子バレー	4	5	8	17	9
男子テニス	6	12	3	21	18
女子テニス	10	10	4	24	20
男子卓球	9	0	4	13	9
女子卓球	0	3	5	8	3
吹奏楽	0	0	6	6	0
	40	41	39	120	81

※部活動以外で、東伊豆バレーボールクラブや東伊豆TFC（陸上）に所属している生徒も多い

東伊豆町の部活動の現状（令和8年5月調査）③

稲取中吹奏楽部 今夏で終了

生徒数減受け 3年生のみ活動



コンクールとコンサートに向けて練習に励む稲取中吹奏楽部の部員＝東伊豆町の同校

東伊豆町の稲取中吹奏楽部は、今夏で活動に幕を閉じる。部員たちは最後のコンクールに向けた練習に加え、地元での「さよならコンサート」も企画し「最後に卒業生や地域の人たちと思いい出をつくりたい」と準備を進めている。

（下田支社 福島安世）

生徒数の減少に伴って挑む。「県大会出場」い、2025年度に同を目標に、顧問の白井部は入部停止となった。現3年生が最後の部員で、昨夏のコンクールを終えて上級生が引退すると6人で活動

コンク、演奏会へ練習

を続け、地域イベントにも出演してきた。18、20日に富士市で開催の第67回県吹奏楽コンクール中学生部門東部地区大会には「ミスティックパレット」「よりみち165」で

「開く。」「かわいいだけじゃだめですか？」「前前世」などを演目に予定する。部長の嘉瀬琴葉さんは「部員で相談し、みんなが知っている曲、思いつく曲を選んで」と説明し「3年間一緒に過ごした仲間と力を合わせて開催したい」。松尾有希奈さんは「地域の人に楽しんでほしい」、野田一花さんは「きれいな音を出していきたい」、鈴木花林さんは「みんなで協力して思いい出に残るコンサートにしたい」と思いを話す。

最後の演目には「東伊豆町の歌」を組み、部のOB・OGや住民に演奏や歌での共演を呼びかける。楽器のある人は当日午後1時からのリハーサルに参

東伊豆町の部活動の現状（令和8年5月調査）④

学校別の状況

- 稲取中：8部活（62名）
吹奏楽、男子バスケ、男子テニス等で
部員極少・0人の部が存在。
※3年生引退後は、女バス、男女バレー、女子テニス、
男子卓球の5部活（39名）
- 熱川中：6部活（58名）
男子卓球などが部員0人。
※3年生引退後は、男女バレー、男女テニス、
女子卓球の5部活（42名）

活動の限界と指導体制

- 活動の限界
すでに単独校でのチーム維持が困難であり、女子バレー部など合同チームでの活動も行われている。
- 指導体制の課題
専門的指導員の不足や、教員の未経験
種目担当による負担が顕著になっている。

生徒数激減と部活動が直面する「危機」

中学校生徒数の推計

令和8年度

161 名

令和11年度（先行統合時）

127 名

令和14年度（一貫校開校時）

102 名

- 「選べない」 危機

わずか6年で生徒数が約4割減少。学校単位に固執すると設置種目数が激減し、子供が興味のある競技を諦めざるを得なくなる。

- 仕組みの転換

「学校単位」の維持から、地域全体でリソース（人・場所・予算）を共有する仕組みへのアップデートが不可欠。

部活動改革のステップと国のスケジュール

改革の2つのステップ

■ 1. 地域連携

学校が運営主体のまま、外部指導員や合同チームで補強する段階。

■ 2. 地域展開

運営主体を地域のクラブ等へ移し、地域全体で支える段階（単なる「移行」ではなく新たな価値を創る意図）。

国の「改革実行期間」 (令和8年度～13年度)

■ 前期（R8～R10）

休日を中心に、原則全ての部活動で地域展開の実現・着手を目指す。

■ 後期（R11～R13）

中間評価を踏まえ、平日も含めた更なる改革を推進する。

「認定制度」と新たな価値の創出

認定地域クラブ活動とは

市町が質の高い活動を保証するため、以下の基準に基づき地域クラブを認定する。

【主な認定基準】

- 適切な活動・休養日の設定
- 低廉な会費
- 安全管理の徹底
- 日本版DBS（犯罪歴確認）の活用
- 学校との円滑な連携

■ 選択肢の拡大

自校にない種目や、複数の競技体験（マルチスポーツ）が可能になる。

■ 質の高い指導

地域の専門家から直接指導を受けられ、中体連等の大会参加も保障される。

■ 多様な交流

他校生、高校生、地域の大人など幅広い世代と繋がることできる。

国・県による具体的支援策（補助金・制度）

ハード面（施設整備）

地域クラブの利用を想定した用具庫の新設、スマートロック導入（教員不在時の解錠）、セキュリティ強化等への補助（国1/3等）が行われる。

ソフト面（活動支援）

指導者謝金、コーディネーター人件費、移動手段の確保、経済的困窮世帯への参加費・保険料補助など、運営を支える支援が用意されている。

兼職兼業の推進

希望する教員が、本人の意思に基づき「副業」として地域クラブで指導できるルール・制度の整備が進められている。

運営体制と指導者の確保・育成

(東伊豆町部活動地域展開推進計画草案)

運営主体の多角化

総合型クラブ、競技団体、民間企業、まちづくり会社など、単一の形式にとらわれず地域に合った最適な主体を選定・検討する。

コーディネーター配置

学校と地域を繋ぎ、施設利用のスケジュールや生徒情報の共有を調整する「専門人材」を配置し、円滑な移行を支える。

指導者の質の保障

地域の専門家、退職教職員、大学生等の多様な人材を活用。安全管理や不適切行為防止に関する定期的な研修を実施し、指導の質を担保する。

東伊豆町部活動改革ロードマップ



地域展開における課題と安全管理の徹底

受益者負担と格差是正

国が示す目安を踏まえ、可能な限り低廉な参加費を設定し、困窮世帯への補助制度を設け「体験の格差」を防ぐ。

活動場所への移動手段の確保

活動場所の集約に伴い、スクールバスの運行調整や送迎車両の活用など、安全で確実な移動の仕組みを構築する。

大会参加の保障

地域クラブ所属の生徒でも中体連などの大会に円滑に参加できるよう、規程の整備と引率体制を整える。

安全・安心の確保

日本版DBSの活用、暴力・ハラスメントの根絶、SNSでの私的なやり取り禁止など、安全管理ガイドラインを徹底する。

今後の検討事項

【重点協議事項】

- 町内・広域で維持する種目の精査
- 運営主体の選定とコーディネーターの配置
- 費用負担のあり方と補助制度の設計

「地域の子供たちは地域全体で育てる」意識の下
持続可能な部活動体制の構築を目指します。

下田市立中学校統合準備会組織について

担当組織（部会）	検討・決定項目
統合準備委員会（全体）	新しい学校の在り方
	学校名
	校章
	校歌
	通学方法
	その他、学校の統合に関し必要な事項
統合推進部会（校長）	校名・校章・校旗・校歌の総括
	開校及び開校式典
	広報活動
	学校経営構想（グランドデザイン）
	キャリア教育
	特別支援教育
	コミュニティスクール
	部活動の設置方針
	通学・スクールバス運行計画の策定
	危機管理対応（全体方針）
地域・PTA部会（教頭）	市P連・PTA会則の整備
	PTA組織の構築と活動内容の決定
	PTA役員交流・保護者交流の促進
	通学路の安全確保・登下校の安全対策
	地域組織との関係調整
	地域・保護者からの意見集約
教育課程部会（教務主任）	教育課程編成（年間計画、週日課、通信票）
	教科指導計画及び評価基準
	学校行事等の計画
	事前交流活動・交流学习の実施
	カリキュラムマネジメント
	キャリア教育の具体的展開
	スクールバスの具体的な運行・利用方法
生徒指導部会（生徒指導主事）	生徒指導方針・生活規程（約束事）
	生活用品の選定（鞆、上履き等）
	生徒会、児童・生徒間交流の実施
	生徒会組織・規約の整備
	運動施設活用計画
	制服・体育館シューズ・外履き靴・ジャージ等の選定
	部活動の活動ルール・部活動後援会調整
	安全指導（校内・校外）

学習部会（研修主任）	総合的な学習の時間の内容検討
	未来を担う子供の育成のためのカリキュラムデザイン
	新中学校の研修と統合を見越した合同研修
	道徳の目標設定
	学習のルール（学習規律）の統一
保健部会（養護教諭）	保健指導計画の策定
	危機管理対応（健康・安全面）
	アレルギー情報の引き継ぎ・対応
庶務・財務部会（事務職員）	備品廃棄・購入計画の策定
	保存文書書類の整理
	学校予算の統合・配分
	学校例規（規則・規定）の整備
	学校図書の整理及び廃棄
	部活動後援会財務調整
	通学補助（事務対応）に關すること
未来の創造プロジェクト部会	地域と学校の協働のあり方の検討
	今後の学校や教育に求められるニーズ（研修）
	未来の地域を担う人材育成のアイデア出し
	総合的な学習の時間・体験学習の企画

統合準備委員会について⑤

5 統合準備委員会組織について

